

新入生のみなさんへ

小樽潮陵高等学校 弓道部

的中よりも大切なもの

弓道の競技としては、的中の数を競い合います。
とにかくたくさん当たったら勝ち。

しかし、弓道には「射品」という言葉があり、
どんなに的中しても、この「射品」がなければ、
真に認められ讃えられることはありません。

「射品」を説明するのは、とても難しいですが、きちんとした弓道着の着こなし、礼儀、作法にかなった体配（決まった弓道の動作）、射形の正しさ、美しさ、誠を尽くす覚悟、平常心といった心の構え等が渾然一体となってかもしだされるものです。

潮陵は、正しく美しい射を、楽しく追求します。

「正しさ」や「美しさ」を高校弓道で純粋に真剣に向き合うことは、とても尊い人生経験となり、人間的に成長できます。

まだまだ休校が続きますが、みなさんと一緒に弓道ができる日を楽しみにしています。



「弓道教本」

弓道には「教本」という、弓技、心構えなどについて統一した指導内容を記した「バイブル」的な書物があり、弓道人はみな、この本に書かれていることを基本にして修練します。弓道審査では実際に行射する「射技試験」とこの「教本」をもとにした「学科試験」が合わせて行われます。

この「教本」は古い言葉が使われ少し難しい所もありますが、とっても「カッコいい」フレーズがたくさんあります。

「一輪の花も、根幹や枝から育てあげなければ花は咲かない。いわんや、^{ふくいく} 馥郁たる名は長期にわたってあらゆる手入れと努力の累積によってほころびる。」
「日本の弓道は的中至上主義をとってはいない。弓道には調和の美がなければならぬ。弓道の要諦は至誠と礼節である。人に勝つことよりも「誠」をつくすことがより大切である。」

